

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町 9番 52号
自己評価作成日	平成24年 8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域の中で生活が送れるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国のグループホームのモデル事業実施時期に開設した事業所で、その運営にはキャリアと実績がある。管理者は、利用者に対する支援の在り方や方法は変わり続けなければならないと考えている。また、利用者の生活の場を、医療や福祉の社会資源全体で支援するという視点も持っている。利用者の生活の質がよりよいものになるよう、医療や福祉の施設それぞれの役割も視野に入れて支援している。利用者の生活の質にこだわった支援をしている事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男・白石 宏美

評価完了日 平成 24 年 8 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をホーム内に掲示してある。職員は理念を念頭におき、ゆっくり、のんびりとした雰囲気の入所者に関わることができるようスタッフ間で声掛けを忘れないよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所では日々のケアを通して、理念を大切に考えながら、ユニット毎にその実践方法に工夫を凝らしている。毎日復唱することで新たな気づきを促す方法や、話し合うことで言葉の深みを確認する方法、介護計画の指針にする方法などである。また、管理者は、事業所全体で共有することにも心を砕いている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会の行事には、できる限り参加。事業所で行なう行事にも地域の方々の参加を呼びかけ、参加して頂けるようにしている。定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようにしている。また、地域の清掃活動にも参加している。</p> <p>(外部評価) 閑静な住宅地にあり、地域との付き合いには13年の歴史がある。自治会からの要請を受け、地域住民に向けた研修会を行うなど、隣接している同法人の保育園と共に、地域の社会資源として地域貢献に力を注いでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議で地域の方を含めた学習会を実施している。グループホームの理解、認知症の方に対する理解や支援方法を学んで頂いている。むつみ新聞にも地域の方が学習できるコーナーを設けている。今後も継続して行きたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、事業所としての取り組みを報告。参加して頂いたご家族、地域住民、行政の方と意見交換をしサービスに反映・活かせるように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、防災訓練の反省や、催し物の準備等と連携して開催しており、会議を単なる報告会にしないよう工夫している。会議で出された意見や要望は検討しサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者、副主任、および担当者が必要に応じて連絡を取り、情報の共有が図れるようにしている。運営推進会議では事業所としての取り組み、考え方などを報告、意見交換を行なっている。	
			(外部評価) グループホームの国のモデル事業の折から運営しており、行政と協力し共に事業を育ててきた関係がある。また、管理者は、市担当者とは事業所の運営だけでなく、地域の福祉や医療における協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは身体拘束をしないことについて十分に理解している。入所者一人一人に合った生活支援ができるように心掛けている。	
			(外部評価) 身体拘束については、ベッド柵や声かけ等にも配慮し、身体拘束ゼロのケアを目指している。利用者は玄関から自由に入出入りできるが、職員は見守りをしっかり行ない自由な暮らしを支援している。身体拘束を精神的な側面からも理解している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 充分ではないが、運営推進会議などでも行政、地域の方、ご家族を交え話し合ったりしている。現在は、実際に制度を活用している入所者の方もおり、もっと理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、副主任より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明し、ご家族の理解を得るとともに不安の軽減をに努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入所者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、ご意見を頂いている。運営推進会議、事業所行事、カンファレンスなど外部の方と接する機会をもち、意見交換できる機会を増やすようにしている。 (外部評価) 時間経過により変化する利用者の状況を、常に家族等と共有しておくことを大切に考えて、話し合う機会をより多く持つように取り組んでいる。管理者は家族等の意見や要望、思いをくみ取り、運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい体制が整い、スタッフから出た意見をリーダー会で検討。スタッフにフィードバックできるようになった。また、年度始めには事業計画として提出、運営に反映している。 (外部評価) 管理者と職員は定期的な会議だけでなく、日々の介護現場でも話し合うよう心がけており、職員が意見をしやすい状況を作っている。また、管理者やユニット責任者は職員を育てることを意識して、職員の意見や提案を積極的に聞き取る取組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は定期的に行なわれている会議で事業所の運営状況、意見を言いながら改善を図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体病院で定期的に研修会を実施している。今年度は、現場の介護福祉士による事業所内研修を実施している。上部組織の開催する研修にも積極的に参加し資質の向上に努めている。また、研修で得た知識・情報の共有ができるように努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部組織である地域密着型サービス協会の主催する相互研修へ参加し、他施設のスタッフとのネットワークが広がっている。継続して行きたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら、声掛けを頻回にし様子を見ながら自然に聴きだせるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなどに記入、聴き 取りの中から利用者、家族の不安や要望を理解するよ うにしている。また、入所当初は、ご家族との連絡を 密にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ご家族、ご本人と話し合い、希望・情報を得ながら日 常生活全般において支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ご本人の気持ちになって、個々の状況に合わせた関係 作りに努めている。できること・したいことを無理の ないよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡・報告を密にし、ご家族と一緒に、ご 本人を支えるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご家族と相談しながらではあるが、特に面会制限もな く、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気であうこ とができるようにしている。個々によって家族背景が 違うので非常に難しい。 (外部評価) 利用者の馴染みの関係を継続できるよう、家族の協力 を得ながらその機会を増やす取組みをしている。事業 所での暮らしが長い利用者や、地域との関係が希薄な 利用者には、幼稚園や小学校との日々の関わりの中 で、新しい馴染みの関係を築けるように支援してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者の個性に応じて良好な関係が保てるように支援している。男性入所者が一人なので孤立しないようにスタッフが間に入りコミュニケーションを取るようになっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、ご本人やご家族の意向を、お聴きし、日々の関わりの中でも把握に努め、職員間が情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 利用者理解の基本は聞き取りであり、それが本人本位のケアに繋がると考えて、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。ユニット責任者は日々の現場でその重要性を職員に伝えている。利用者情報は引き継ぎ時やケア会議等で、口頭や記録により共有化されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時フェイスシートを基に、お聴きし情報を得ているようにしている。充分でないところは日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から把握するようにしている。また、ご家族の面会時に聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りなどで話し合う機会を持ち、一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア・支援に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人から希望を聴く事は難しい時がある。ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望やご意見を聴き、取り入れるようにしている。ご本人主体の介護・支援計画が作成できるようにしている。モニタリングの充実を図りたい。	
			(外部評価) 介護計画は利用者毎に担当職員がおり、日々の気づきを踏まえて介護目標を立てている。家族等には管理者が説明、確認して意見や要望を介護計画に反映させている。ケア会議は月1回行われ、管理者や計画作成担当者を含めて職員全員で話し合い介護計画を作成している。	モニタリングにより介護計画を見直すだけでなく、利用者が日常生活の中でその達成感を感じ取れるような取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入、週間活動表にも具体的に記入したり記録ノートの工夫を図りながら、職員間の共有ができるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。母体病院との連携強化に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方の訪問、介護相談員の方の訪問、自治会の敬老会、盆踊り、住民運動会等に参加。また、保育園の園児との交流など、いろいろな方と触れ合う機会を持っている。安全で豊かな暮らしを楽しむことができていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。個々 のかかりつけ医の受診も継続的に行い、その他につい ても必要に応じてご家族と相談実施している。ご家族 が同行できない時にはスタッフが同行支援している。	
			(外部評価) 母体法人が総合病院であるため、医療的なケア体制は 充実している。多くの利用者のかかりつけ医は母体病 院の医師が担当しており、安心感が高い。また、看護 師でもある管理者は、利用者のかかりつけ医になっ ている他の医療機関とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入所者の状態変化に対しては職場内の看護師と相談、 状況に応じ担当医に相談、適切に対処できるようにし ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や主治医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう情報の提供を行い情報の共有ができるよ うにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時、また状態の変化に応じて、その都度、ご家族 に対して事業所としての考えを説明している。 ご家族はターミナルケアを望んでいる方がほとん どで、先々の不安が強い。母体病院との連携強化を図 るとともに特養等の施設申請をお願いしている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の状況に合わせて事業所でできるこ と、できないことを家族等に説明し、特別養護老人 ホームや医療機関への移行など、利用者の生活の質に 重点を置いた支援を心がけている。日頃から家族等と の話し合いを重視し、利用者の状況把握に努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体病院の看護師、また、消防機関などの協力を頂きながら定期的な研修を行なっている。今後も継続して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。 (外部評価) 事業所は平屋でユニットが全て独立しており、利用者の避難には適した建物である。消防団からアドバイスをもらい、災害対策の改善に努め、協力体制が堅固になるよう取り組んでいる。事業所の広い地域交流スペースを、災害時には地域の福祉拠点として提供し、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者様の人格の尊重は、スタッフ一人一人が常に心掛けて支援している。個々のペースに合わせて、自由に過ごせるよう支援したい。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら、職員は安心感を与える自然な対応や人間味ある声かけに努めている。全ての職員の言葉の響きには優しさと丁寧さが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援、会話の中で、ご本人の気持ち希望を聴き取れるように心掛けている。ご本人が決定できる場面を作るようにしている。自己決定のできない人はスタッフがその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限りではあるが、一人一人のペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族と話し合いながら、その人の状況に応じた身だしなみ・おしゃれができるように取り組んでいる。ご本人同伴の買い物外出、理美容院への散髪外出などを実施している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の残存機能を生かしながら負担を感じないよう配慮しながら手伝って頂いている。食事の内容も、個々の好みに応じて工夫をしている。	
			(外部評価) 食事の楽しみは材料選びからと考え、毎日職員は利用者と一緒に買い物に出掛けている。利用者の食事量や食べ方などは長期的な視点から見守り、食事が楽しくなることを重視している。利用者は、食後には自ら台所で食器を洗い始め、職員との会話からも楽しそうな笑顔が垣間見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量は、入所者個々によって差が見られる。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養摂取、水分補給ができるように、こまめなチェックをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援している。入所者の身体的疲労、負担の軽減が図れている。口腔ケアの実施。舌ブラシの使用や義歯洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時トイレ誘導し可能な限りトイレでの排泄支援をしている。	
			(外部評価) 事業所ではユニットごとにトイレの配置が異なり、居室毎にトイレがあるタイプや一か所に集中しているタイプなどがある。排泄の自立支援の方法は、ユニット毎で異なるが、極力トイレで排泄することを目標としている。利用者一人ひとりに合った排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けている。困難な方には緩下剤を服用、調整をしたり、水分補給、ヨーグルトなど乳酸菌を飲用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的な日程は決めているが、一人一人の意向を大切にし、入浴を嫌がる入所者様には声掛けの工夫をして清潔の保持ができるよう支援している。	
			(外部評価) 高齢期の入浴は、気持ち良さもあるが本人にとって負担でもあることを職員は理解しており、タイミングや言葉かけを工夫しながら入浴を楽しめるよう支援している。入浴の時間は、利用者の良いコミュニケーションがとれるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じて休息を取って頂いている。夜間の睡眠は、個々によって違うが覚醒時には、声掛け見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬説明書を熟読し、薬の効果、副作用、用法や量についての知識を持つようにしている。服用時にはスタッフ間で確認しながら服薬支援することで間違いのないようにしている。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対して対応できるように心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持てることを理解し、場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、水やり、草引き、折り紙、パズルなど本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に応じて支援できるようにし、気分転換を図っている。地域行事等への参加、ユニット間の交流も積極的に行なうようにしている。ご家族の協力を頂きながら取り組んでいる。	
			(外部評価) 日頃は、散歩や買い物などの日常的な外出を支援している。事業所の中心にある地域交流スペースは、雨に濡れることなく外気浴ができる場所となっている。また、母体法人には団体で出かける事が可能な車両が整っており、利用者の遠出に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事務所で管理している。入所者の買い物などについては必要に応じ、ご家族の了解を得て行なっている。最近では小銭程度を持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。ご家族からも定期的に電話をかけて下さったりしており会話をすることで刺激になっている。毎月、事業所から、ご家族に対してのメッセージを送らせて頂き、近況をご報告している。ご本人からの一言を記入して頂いたり工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) できる限り混乱を招かないよう配慮・工夫をし、心の落ち着く空間作りに努めている。入所者の方が過ごしやすい環境作りを心掛けている。</p> <p>(外部評価) ユニットごとにタイプの異なる共用スペースがある。民家改修型のユニットは、温もりのある自宅のような趣のリビングで、ほっとできる空間である。他のユニットもソファの配置や畳空間に工夫があり、利用者の居心地に配慮していることが分かる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 狭い空間なので、ソファ、テーブル、テレビなどの配置を工夫しながら、それぞれが自分たちのペースで生活できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人ご家族の想いの空間を作って頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者の居室は、ユニットごとに雰囲気が異なるが、居室ごとに畳を入れたり家具の配置に変化を持たせたりしている。管理者が家族へ働きかけて、利用者が使い慣れたものを持ち込み、居心地よく過ごせる個性豊かな空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) もともと軽度の認知症高齢者を受け入れを考慮して作られている。現在入所されている方の高齢化により身体機能の低下が見られる。ハード面の改善、補助具などを活用しながら安全に対し注意を行ないながら生活支援を行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町 9番 52号
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域の中で生活が送れるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国のグループホームのモデル事業実施時期に開設した事業所で、その運営にはキャリアと実績がある。管理者は、利用者に対する支援の在り方や方法は変わり続けなければならないと考えている。また、利用者の生活の場を、医療や福祉の社会資源全体で支援するという視点も持っている。利用者の生活の質がよりよいものになるよう、医療や福祉の施設それぞれの役割も視野に入れて支援している。利用者の生活の質にこだわった支援をしている事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム むつみの家

(ユニット名) 2 棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男・近藤 久留美

評価完了日 平成 24 年 8 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をホーム内に掲示してあり職員全員で共有することができていると思われる。実践については、できていない部分もあるので今後も努力したい。</p> <p>(外部評価) 事業所では日々のケアを通して、理念を大切に考えながら、ユニット毎にその実践方法に工夫を凝らしている。毎日復唱することで新たな気づきを促す方法や、話し合うことで言葉の深みを確認する方法、介護計画の指針にする方法などである。また、管理者は、事業所全体で共有することにも心を砕いている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会の行事には、できる限り参加。事業所で行なう行事にも地域の方々の参加を呼びかけ、参加して頂けるようにしている。定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようにしている。また、地域の清掃活動にも参加している。</p> <p>(外部評価) 閑静な住宅地にあり、地域との付き合いには13年の歴史がある。自治会からの要請を受け、地域住民に向けた研修会を行うなど、隣接している同法人の保育園と共に、地域の社会資源として地域貢献に力を注いでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で地域の方を含めた学習会を実施している。グループホームの理解、認知症の方に対する理解や支援方法を学んで頂いている。むつみ新聞にも地域の方が学習できるコーナーを設けている。今後も継続して行きたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議は、2ヶ月に1回している。会議では、事業所と しての取り組みを報告。参加して頂いたご家族、地域 住民、行政の方と意見交換をしサービスに反映できる ように努めている。参加できなかったご家族に対しても 興味もって頂ける様に継続的に働きかけをしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、防災訓練の反省や、催し物の準備等 と連携して開催しており、会議を単なる報告会にしな いよう工夫している。会議で出された意見や要望は検 討しサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 管理者を中心に副主任、および担当者が必要に応じて 連絡を取り、情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) グループホームの国のモデル事業の折から運営してお り、行政と協力し共に事業を育ててきた関係がある。 また、管理者は、市担当者とは事業所の運営だけでな く、地域の福祉や医療における協力関係が築かれてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは身体拘束をしないことについて十分に理解 している。入所者一人一人に合った生活支援ができる ように心掛けている。	
			(外部評価) 身体拘束については、ベッド柵や声かけ等にも配慮 し、身体拘束ゼロのケアを目指している。利用者は玄 関から自由に入出りできるが、職員は見守りをしっか り行ない自由な暮らしを支援している。身体拘束を精 神的な側面からも理解している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意、努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 2棟では該当者はいないが、実際に制度を活用している入所者の方もおり、もっと理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、副主任より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明し、ご家族の理解を得るとともに不安の軽減をに努めている。不明な点については、その都度説明するように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入所者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、ご意見を頂いている。運営推進会議、事業所行事、カンファレンスなど外部の方と接する機会をもち、意見交換できる機会を増やすようにしている。 (外部評価) 時間経過により変化する利用者の状況を、常に家族等と共有しておくことを大切に考えて、話し合う機会をより多く持つよう取り組んでいる。管理者は家族等の意見や要望、思いをくみ取り、運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の部署会で意見を提案して頂きリーダー会で検討し意見集約、年度始めの事業計画に反映させている。都度の内容については、管理者が参加している母体病院の会議にて提案したり決裁伺い等書面で了解を得るようにしている。 (外部評価) 管理者と職員は定期的な会議だけでなく、日々の介護現場でも話し合うよう心がけており、職員が意見をしやすい状況を作っている。また、管理者やユニット責任者は職員を育てることを意識して、職員の意見や提案を積極的に聞き取る取組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は定期的に行なわれている会議で事業所の運営状況、意見を言いながら改善を図っている。一度には難しいので徐々にでも改善できるところから取り組みたい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体病院で定期的に研修会を実施している。今年度は、現場の介護福祉士による事業所内研修を実施している。上部組織の開催する研修にも積極的に参加し資質の向上に努めている。また、研修で得た知識・情報の共有ができるように努力している。一人一人が積極的に研修参加するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部組織である地域密着型サービス協会の主催する相互研修へ参加し、他施設のスタッフとのネットワークが広がっている。継続して行きたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら、また、レクリエーションなどを通して関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなどに記入、聴き 取りの中から利用者、家族の不安や要望を理解するよ うに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ご家族、本人様の話し合い、日常生活全般において支 援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ご本人の気持ちになって、個々の状況に合わせた関係 作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡・報告を密にし、ご家族と一緒に、ご 本人を支えて行けるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご家族と相談しながらではあるが、特に面会制限もな く、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気でお話 ができています。心地よく感じて頂ける様心掛けてい る。 (外部評価) 利用者の馴染みの関係を継続できるよう、家族の協力 を得ながらその機会を増やす取組みをしている。事業 所での暮らしが長い利用者や、地域との関係が希薄な 利用者には、幼稚園や小学校との日々の関わりの中 で、新しい馴染みの関係を築けるように支援してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の関係把握を十分に図り、トラブル時には早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人やご家族の意向を、お聴きしたり、日々の関わりの中で把握に努め、職員間が情報の共有が図れるように努めているが、まだまだ不十分なところがある。	
			(外部評価) 利用者理解の基本は聞き取りであり、それが本人本位のケアに繋がると考えて、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。ユニット責任者は日々の現場でその重要性を職員に伝えている。利用者情報は引き継ぎ時やケア会議等で、口頭や記録により共有化されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時フェイスシートを基に、お聴きし情報を得ているようにしている。充分でないところは日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から把握するようにしている。また、ご家族の面会時に聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りなどで話し合う機会を持ち、一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア・支援に活かせるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、部署会を開催。個々のケアプランについて話し合いを行い確認、プランに沿った生活支援ができるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 介護計画は利用者毎に担当職員がおり、日々の気づきを踏まえて介護目標を立てている。家族等には管理者が説明、確認して意見や要望を介護計画に反映させている。ケア会議は月1回行われ、管理者や計画作成担当者を含めて職員全員で話し合い介護計画を作成している。	モニタリングにより介護計画を見直すだけでなく、利用者が日常生活の中でその達成感を感じ取れるような取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録については職員全員が目を通し情報の共有ができるようにしている。また、毎朝の申し送りの際に各人の様子について細かな報告をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方の訪問、介護相談員の方の訪問、自治会の敬老会、盆踊り、住民運動会等に参加。また、保育園の園児との交流など、いろいろな方と触れ合う機会を持つようにしているが、今後もより密接な関係作りが必要と考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。個々 のかかりつけ医の受診も継続的に行い、その他につい ても必要に応じてご家族と相談実施している。ご家族 が同行できない時にはスタッフが同行支援している。	
			(外部評価) 母体法人が総合病院であるため、医療的なケア体制は 充実している。多くの利用者のかかりつけ医は母体病 院の医師が担当しており、安心感が高い。また、看護 師でもある管理者は、利用者のかかりつけ医になっ ている他の医療機関とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内の看護師と相談、状況に応じ担当医に相談、対 応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や主治医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう情報の提供を行い情報の共有ができるよ うにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時、また状態の変化に応じて、その都度、ご家族 に対して事業所としての考えを説明している。 ご家族にとっては先々の不安が強い。母体病院との連 携強化を図るとともに特養等の施設申請をお願いして いる。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の状況に合わせて事業所でできるこ と、できないことを家族等に説明し、特別養護老人 ホームや医療機関への移行など、利用者の生活の質に 重点を置いた支援を心がけている。日頃から家族等と の話し合いを重視し、利用者の状況把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 避難訓練の際、消防署の職員による心肺蘇生、AEDの使用訓練を実施している。今年度は、AEDも設置することができた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民の方にも呼びかけ、参加して頂いている。今後は、より一層の連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。 (外部評価) 事業所は平屋でユニットが全て独立しており、利用者の避難には適した建物である。消防団からアドバイスをもらい、災害対策の改善に努め、協力体制が堅固になるよう取り組んでいる。事業所の広い地域交流スペースを、災害時には地域の福祉拠点として提供し、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者様の人格の尊重は、スタッフ一人一人が常に心掛けて支援している。個々のペースに合わせ、自由に過ごせるよう支援したい。時に口調が雑になる場面もあるので注意したい。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら、職員は安心感を与える自然な対応や人間味ある声かけに努めている。全ての職員の言葉の響きには優しさと丁寧さが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援、会話の中で、ご本人の気持ち希望を聴き取れるように心掛けている。ご本人が決定できる場面を作るようにしている。自己決定のできない人はスタッフがその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切に無理のないよう体調に気を配りながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族と話し合いながら、その人の状況に応じた身だしなみ・おしゃれができるように取り組んでいる。ご本人同伴の買い物外出、理美容院への散髪外出などを実施している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食卓の雰囲気作りに配慮している。(音楽をかけたり会話をしながら季節を感じて頂く) 個々の残存機能を生かしながら負担を感じないよう配慮しながら手伝って頂いている。食事の内容も、個々の好みに応じて工夫をしている。	
			(外部評価) 食事の楽しみは材料選びからと考え、毎日職員は利用者で買い物に出掛けている。利用者の食事量や食べ方などは長期的な視点から見守り、食事が楽しくなることを重視している。利用者は、食後には自ら台所で食器を洗い始め、職員との会話からも楽しそうな笑顔が垣間見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量は、入所者個々によって差が見られる。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養摂取、水分補給ができるように、こまめなチェックをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援している。入所者の身体的疲労、負担の軽減が図れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、身体状況に合わせて支援をしている。	
			(外部評価) 事業所ではユニットごとにトイレの配置が異なり、居室毎にトイレがあるタイプや一か所に集中しているタイプなどがある。排泄の自立支援の方法は、ユニット毎で異なるが、極力トイレで排泄することを目標としている。利用者一人ひとりに合った排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けている。困難な方には緩下剤を服用、調整をしたり、水分補給、ヨーグルトなど乳酸菌を飲用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の時間帯については難しい面があるが、一人一人の意向を大切に、入浴を嫌がる入所者様には声掛の工夫をして清潔の保持ができるよう支援している。	
			(外部評価) 高齢期の入浴は、気持ち良さもあるが本人にとって負担でもあることを職員は理解しており、タイミングや言葉かけを工夫しながら入浴を楽しめるよう支援している。入浴の時間は、利用者の良いコミュニケーションがとれるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛を行い、休息を取って頂いている。夜間の睡眠は、個々によって違うが覚醒時には、声掛け見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や量についてはスタッフ全員が理解できるようにしている。服用時にはスタッフ間で確認しながら服薬支援することで間違いのないようにしている。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対して対応できるように心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持てることを理解し場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、水やり、草引き、折り紙、パズルなど本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に応じて支援できるようにし、気分転換を図っている。地域行事等への参加、ユニット間の交流も積極的に行なうようにしている。ご家族の協力を頂きながら取り組んでいる。	
			(外部評価) 日頃は、散歩や買い物などの日常的な外出を支援している。事業所の中心にある地域交流スペースは、雨に濡れることなく外気浴ができる場所となっている。また、母体法人には団体で出かける事が可能な車両が整っており、利用者の遠出に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事務所で管理している。入所者の買い物などについては必要に応じ、ご家族の了解を得て行なっている。最近では小銭程度を持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。毎月、事業所から、ご家族に対してのメッセージを送らせて頂き、近況をご報告している。ご本人からの一言を記入して頂いたり工夫をしている。自ら携帯電話持っている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節折々の花を飾ったり、はり絵をしたり季節を感じれ心の落ち着く空間作りに努めている。入所者の方が過ごしやすい環境作りを心掛けている。</p> <p>(外部評価) ユニットごとにタイプの異なる共用スペースがある。民家改修型のユニットは、温もりのある自宅のような趣のリビングで、ほっとできる空間である。他のユニットもソファの配置や畳空間に工夫があり、利用者の居心地に配慮していることが分かる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 各自が落ち着く空間があり、それぞれが自分たちのペースで生活できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人ご家族の想いの空間を作って頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者の居室は、ユニットごとに雰囲気が異なるが、居室ごとに畳を入れたり家具の配置に変化を持たせたりしている。管理者が家族へ働きかけて、利用者が使い慣れたものを持ち込み、居心地よく過ごせる個性豊かな空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) もともと軽度の認知症高齢者を受け入れを考えて作られている。現在入所されている方の高齢化により身体機能の低下が見られる。ハード面の改善、補助具などを活用しながら安全に対し注意を行ないながら生活支援を行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町 9番 52号
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域の中で生活が送れるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国のグループホームのモデル事業実施時期に開設した事業所で、その運営にはキャリアと実績がある。管理者は、利用者に対する支援の在り方や方法は変わり続けなければならないと考えている。また、利用者の生活の場を、医療や福祉の社会資源全体で支援するという視点も持っている。利用者の生活の質がよりよいものになるよう、医療や福祉の施設それぞれの役割も視野に入れて支援している。利用者の生活の質にこだわった支援をしている事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム むつみの家

(ユニット名) 3 棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男・上田 あや子

評価完了日 平成 24 年 8 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をホーム内に掲示してある。職員は理念を念頭におき入所者のケアに反映できるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では日々のケアを通して、理念を大切に考えながら、ユニット毎にその実践方法に工夫を凝らしている。毎日復唱することで新たな気づきを促す方法や、話し合うことで言葉の深みを確認する方法、介護計画の指針にする方法などである。また、管理者は、事業所全体で共有することにも心を砕いている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会の行事には、できる限り参加。事業所で行なう行事にも地域の方々の参加を呼びかけ、参加して頂けるようにしている。定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようにしている。また、地域の清掃活動にも参加している。</p> <p>(外部評価) 閑静な住宅地にあり、地域との付き合いには13年の歴史がある。自治会からの要請を受け、地域住民に向けた研修会を行うなど、隣接している同法人の保育園と共に、地域の社会資源として地域貢献に力を注いでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議で地域の方を含めた学習会を実施している。グループホームの理解、認知症の方に対する理解や支援方法を学んで頂いている。むつみ新聞にも地域の方が学習できるコーナーを設けている。今後も継続して行きたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、事業所としての取り組みを報告。参加して頂いたご家族、地域住民、行政の方と意見交換をしサービスに反映できるように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、防災訓練の反省や、催し物の準備等と連携して開催しており、会議を単なる報告会にしないよう工夫している。会議で出された意見や要望は検討しサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者、副主任、および担当者が必要に応じて連絡を取り、情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) グループホームの国のモデル事業の折から運営しており、行政と協力し共に事業を育ててきた関係がある。また、管理者は、市担当者とは事業所の運営だけでなく、地域の福祉や医療における協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは身体拘束をしないことについて十分に理解している。入所者一人一人に合った生活支援ができるように心掛けている。	
			(外部評価) 身体拘束については、ベッド柵や声かけ等にも配慮し、身体拘束ゼロのケアを目指している。利用者は玄関から自由に入出入りできるが、職員は見守りをしっかり行ない自由な暮らしを支援している。身体拘束を精神的な側面からも理解している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に制度を活用している入所者の方もおり、もっと理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、副主任より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明し、ご家族の理解を得るとともに不安の軽減をに努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入所者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、ご意見を頂いている。運営推進会議、事業所行事、カンファレンスなど外部の方と接する機会をもち、意見交換できる機会を増やすようにしている。 (外部評価) 時間経過により変化する利用者の状況を、常に家族等と共有しておくことを大切に考えて、話し合う機会をより多く持つよう取り組んでいる。管理者は家族等の意見や要望、思いをくみ取り、運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい体制が整い、スタッフから出た意見をリーダー会で検討。スタッフにフィードバックできるようになった。また、年度始めには事業計画として提出、運営に反映している。 (外部評価) 管理者と職員は定期的な会議だけでなく、日々の介護現場でも話し合うよう心がけており、職員が意見をしやすい状況を作っている。また、管理者やユニット責任者は職員を育てることを意識して、職員の意見や提案を積極的に聞き取る取組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は定期的に行なわれている会議で事業所の運営状況、意見を言いながら改善を図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体病院で定期的に研修会を実施している。今年度は、現場の介護福祉士による事業所内研修を実施している。上部組織の開催する研修にも積極的に参加し資質の向上に努めている。また、研修で得た知識・情報の共有ができるように努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部組織である地域密着型サービス協会の主催する相互研修へ参加し、他施設のスタッフとのネットワークが広がっている。継続して行きたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら、また、レクリエーションなどを通して関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなどに記入、聴き取りの中から利用者、家族の不安や要望を理解するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族、本人様の話し合い、希望・情報を得ながら日常生活全般において支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人の気持ちになって、個々の状況に合わせた関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡・報告を密にし、ご家族と一緒に、ご本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と相談しながらではあるが、特に面会制限もなく、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気でお話ができる。心地よく感じて頂ける様心掛けている。 (外部評価) 利用者の馴染みの関係を継続できるよう、家族の協力を得ながらその機会を増やす取組みをしている。事業所での暮らしが長い利用者や、地域との関係が希薄な利用者には、幼稚園や小学校との日々の関わりの中で、新しい馴染みの関係を築けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の関係把握を十分に図り、トラブル時には早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、ご本人やご家族の意向を、お聴きし、日々の関わりの中でも把握に努め、職員間が情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 利用者理解の基本は聞き取りであり、それが本人本位のケアに繋がると考えて、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。ユニット責任者は日々の現場でその重要性を職員に伝えている。利用者情報は引き継ぎ時やケア会議等で、口頭や記録により共有化されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時フェイスシートを基に、お聴きし情報を得ているようにしている。充分でないところは日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から把握するようにしている。また、ご家族の面会時に聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りなどで話し合う機会を持ち、一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア・支援に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人から希望を聴く事は難しい時がある。ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望やご意見を聴き、取り入れるようにしている。ご本人主体の介護・支援計画が作成できるようにしている。	
			(外部評価) 介護計画は利用者毎に担当職員がおり、日々の気づきを踏まえて介護目標を立てている。家族等には管理者が説明、確認して意見や要望を介護計画に反映させている。ケア会議は月1回行われ、管理者や計画作成担当者を含めて職員全員で話し合い介護計画を作成している。	モニタリングにより介護計画を見直すだけでなく、利用者が日常生活の中でその達成感を感じ取れるような取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入、週間活動表にも具体的に記入し職員間の共有ができるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方の訪問、介護相談員の方の訪問、自治会の敬老会、盆踊り、住民運動会等に参加。また、保育園の園児との交流など、いろいろな方と触れ合う機会を持っている。安全で豊かな暮らしを楽しむことができていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。個々 のかかりつけ医の受診も継続的に行い、その他につい ても必要に応じてご家族と相談実施している。ご家族 が同行できない時にはスタッフが同行支援している。	
			(外部評価) 母体法人が総合病院であるため、医療的なケア体制は 充実している。多くの利用者のかかりつけ医は母体病 院の医師が担当しており、安心感が高い。また、看護 師でもある管理者は、利用者のかかりつけ医になっ ている他の医療機関とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内の看護師と相談、状況に応じ担当医に相談、対 応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や主治医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう情報の提供を行い情報の共有ができるよ うにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時、また状態の変化に応じて、その都度、ご家族 に対して事業所としての考えを説明している。 ご家族にとっては先々の不安が強い。母体病院との連 携強化を図るとともに特養等の施設申請をお願いして いる。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の状況に合わせて事業所でできるこ と、できないことを家族等に説明し、特別養護老人 ホームや医療機関への移行など、利用者の生活の質に 重点を置いた支援を心がけている。日頃から家族等と の話し合いを重視し、利用者の状況把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体病院の看護師、事業所内の介護福祉士などにより定期的な研修を行なっている。今後も継続して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。 (外部評価) 事業所は平屋でユニットが全て独立しており、利用者の避難には適した建物である。消防団からアドバイスをもらい、災害対策の改善に努め、協力体制が堅固になるよう取り組んでいる。事業所の広い地域交流スペースを、災害時には地域の福祉拠点として提供し、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者様の人格の尊重は、スタッフ一人一人が常に心掛けて支援している。個々のペースに合わせて、自由に過ごせるよう支援したい。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら、職員は安心感を与える自然な対応や人間味ある声かけに努めている。全ての職員の言葉の響きには優しさと丁寧さが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援、会話の中で、ご本人の気持ち希望を聴き取れるように心掛けている。ご本人が決定できる場面を作るようにしている。自己決定のできない人はスタッフがその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族と話し合いながら、その人の状況に応じた身だしなみ・おしゃれができるように取り組んでいる。ご本人同伴の買い物外出、理美容院への散髪外出などを実施している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食卓の雰囲気作りに配慮している。(音楽をかけたり会話をしながら季節を感じて頂く) 個々の残存機能を生かしながら負担を感じないよう配慮しながら手伝って頂いている。食事の内容も、個々の好みに応じて工夫をしている。	
			(外部評価) 食事の楽しみは材料選びからと考え、毎日職員は利用者と一緒に買い物に出掛けている。利用者の食事量や食べ方などは長期的な視点から見守り、食事が楽しくなることを重視している。利用者は、食後には自ら台所で食器を洗い始め、職員との会話からも楽しそうな笑顔が垣間見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量は、入所者個々によって差が見られる。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養摂取、水分補給ができるように、こまめなチェックをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援している。入所者の身体的疲労、負担の軽減が図れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時トイレ誘導し可能な限りトイレでの排泄支援をしている。	
			(外部評価) 事業所ではユニットごとにトイレの配置が異なり、居室毎にトイレがあるタイプや一か所に集中しているタイプなどがある。排泄の自立支援の方法は、ユニット毎で異なるが、極力トイレで排泄することを目標としている。利用者一人ひとりに合った排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けている。困難な方には緩下剤を服用、調整をしたり、水分補給、ヨーグルトなど乳酸菌を飲用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。一人一人の意向を大切にし、入浴を嫌がる入所者様には声掛の工夫をして清潔の保持ができるよう支援している。	
			(外部評価) 高齢期の入浴は、気持ち良さもあるが本人にとって負担でもあることを職員は理解しており、タイミングや言葉かけを工夫しながら入浴を楽しめるよう支援している。入浴の時間は、利用者の良いコミュニケーションがとれるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛を行い、休息を取って頂いている。夜間の睡眠は、個々によって違うが覚醒時には、声掛け見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や量についてはスタッフ全員が理解できるようにしている。服用時にはスタッフ間で確認しながら服薬支援することで間違いのないようにしている。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対して対応できるように心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持てることを理解し場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、水やり、草引き、折り紙、パズルなど本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に応じて支援できるようにし、気分転換を図っている。地域行事等への参加、ユニット間の交流も積極的に行なうようにしている。ご家族の協力を頂きながら取り組んでいる。	
			(外部評価) 日頃は、散歩や買い物などの日常的な外出を支援している。事業所の中心にある地域交流スペースは、雨に濡れることなく外気浴ができる場所となっている。また、母体法人には団体で出かける事が可能な車両が整っており、利用者の遠出に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事務所で管理している。入所者の買い物などについては必要に応じ、ご家族の了解を得て行なっている。最近では小銭程度を持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。ご家族からも定期的に電話をかけて下さったりしており会話をすることで刺激になっている。毎月、事業所から、ご家族に対してのメッセージを送らせて頂き、近況をご報告している。ご本人からの一言を記入して頂いたり工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節折々の花を飾ったり、はり絵をしたり季節を感じれ心の落ち着く空間作りに努めている。入所者の方が過ごしやすい環境作りを心掛けている。</p> <p>(外部評価) ユニットごとにタイプの異なる共用スペースがある。民家改修型のユニットは、温もりのある自宅のような趣のリビングで、ほっとできる空間である。他のユニットもソファの配置や畳空間に工夫があり、利用者の居心地に配慮していることが分かる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 各自が落ち着く空間があり、それぞれが自分たちのペースで生活できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人ご家族の想いの空間を作って頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者の居室は、ユニットごとに雰囲気が異なるが、居室ごとに畳を入れたり家具の配置に変化を持たせたりしている。管理者が家族へ働きかけて、利用者が使い慣れたものを持ち込み、居心地よく過ごせる個性豊かな空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) もともと軽度の認知症高齢者を受け入れを考慮して作られている。現在入所されている方の高齢化により身体機能の低下が見られる。ハード面の改善、補助具などを活用しながら安全に対し注意を行ないながら生活支援を行っている。</p>	